

総務企業委員会会議録

1 日 時 令和5年12月11日（月曜日）

午前9時30分～午前11時23分

2 場 所 委員会室

3 出席委員 猶野智和委員長 坪井康男副委員長
山中佳子委員 高木法生委員
岡山隆委員 村田弘司委員
山下安憲委員

4 欠席委員 なし

5 委員外出席議員

竹岡昌治議長

6 出席した事務局職員

岡崎基代 議会事務局長 石田淳司 議会事務局議事調査班長
阿武泰貴 議会事務局庶務班長

7 説明のため出席した者の職氏名

志賀雅彦	副市長	佐々木昭治	総務企画部長
河村充展	観光商工部長	白井栄次	上下水道局長
安村芳武	病院事業局管理部長	松永潤	消防長
古屋敦子	総務企画部次長	古屋壮之	病院事業局管理部次長
坪井明信	消防本部次長	中島紀子	地域振興課長
別府泰孝	商工労働課長	長田直美	管理業務課長
吉村昌展	施設課長	古川和則	市立病院事務部事務長
泉雅文	消防本部総務課長		

8 会議の次第は次のとおりである。

午前 9 時30分開会

○委員長（猶野智和君） ただいまより、総務企業委員会を開会いたします。

さきの本会議におきまして、本委員会に付託されました市長提出議案 6 件につきまして、審査いたしたいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

なお、執行部及び議員の皆さんには、簡潔明瞭な説明と質疑に努められますようお願いいたします。

議長、報告事項などございましたらお願いいたします。

○議長（竹岡昌治君） ありません。

○委員長（猶野智和君） それでは審査を始めます。

最初に、議案第96号令和 5 年度美祢市水道事業会計補正予算（第 2 号）を議題といたします。執行部より説明を求めます。長田管理業務課長。

○管理業務課長（長田直美君） それでは、議案第96号令和 5 年度美祢市水道事業会計補正予算（第 2 号）について御説明いたします。

このたびの補正は、災害復旧に要した経費及び今後も起こりうる大雨災害への備えとして、祖父ヶ瀬浄水場における浸水対策に要する事業費等を追加するものであります。

補正予算書の予算実施計画で御説明させていただきます。

3 ページ、4 ページ、収益的収入及び支出の収入につきましては、建設改良費等の追加に伴い、営業外収益の消費税還付金を270万5,000円追加し、収入合計を 8 億 5,543万8,000円とする一方、支出につきましては、営業外費用のその他営業外費用におきまして、給水活動費等の災害復旧費を279万4,000円追加し、支出合計を 7 億 7,409万4,000円とするものであります。

続きまして、5 ページ、6 ページ、資本的収入及び支出の収入につきましては、出資金におきまして、浸水対策工事費の財源として、一般会計出資金を1,347万 8,000円追加し、収入合計を10億5,887万1,000円とする一方、支出につきましては、建設改良費の排水設備改良費におきまして、祖父ヶ瀬浄水場浸水対策工事費を 2,695万7,000円追加し、支出合計を13億2,801万3,000円とするものであります。この補正により、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は 2 億6,914万 2,000円となり、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額8,338万1,000円、過年度分損益勘定留保資金 1 億4,612万1,000円、当年度分損益勘定留保資金3,964

万円で補填するものであります。

最後に、補正予算資料 2 ページ、3 ページを御覧ください。

このたびの補正による令和 5 年度の予定損益計算書でございます。

3 ページの下から 3 行目を御覧ください。

当年度純損失が282万3,000円になる予定であります。

議案第96号の説明は以上となります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。本案に対する質疑を行います。質疑はございませんか。坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） この建設改良工事の中身、どのような工事をされるのか、概要で結構ですから、御説明をお願いします。

○委員長（猶野智和君） 吉村施設課長。

○施設課長（吉村昌展君） 坪井副委員長の御質問にお答えいたします。

令和 5 年 6 月 29 日から大雨の影響により、祖父ヶ瀬浄水場が30センチ程度浸水し、管理棟や送水ポンプ室の扉から河川水が施設の内部に侵入したため、送水機能が停止する被害が発生しております。このことから、祖父ヶ瀬浄水場の浸水対策工事として、管理棟や送水ポンプ室などの扉箇所には、高さ 1 メートル20センチの脱着式の止水管を設置し、また、電気設備周辺には、高さ 1 メートル20センチの防護壁を設置し、内部への浸水を防ぐことにしております。

説明は以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 今説明がありましたけれども、今回、この浄水場対策工事費 2,695万7,000円、今施行が説明あったけど、問題は今回、防災、水害で、かなり水位が高くなると思いますけれども、今回と同様、またはそれ以上の水害豪雨があった場合に、今回の対応で賄えるかどうか、これについての検証はどうなんでしょうか。お伺いします。今回とさらにそれよりも 1 メートルぐらいに、何か高い水位があった場合ですね。

○委員長（猶野智和君） 吉村施設課長。

○施設課長（吉村昌展君） 岡山委員の御質問にお答えいたします。

止水盤や防護壁の高さについては、国のハザードマップによる10年から100年に1回程度の規模、それから、この度の大雨の状況から想定される浸水深さを検討し

ております。その結果、10年から100年に1回程度の降雨強度では、浸水深さは50センチを想定されます。

また、今回の雨では30センチ程度浸水していることから、今後想定される浸水深さは50センチと考えておりまして、今回の対策工事では1メートル20センチの止水版、防護壁を設置することにより、水位が上昇したとしても防げると考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） その辺しっかりと検証していただきたいと思います。

それと今回、この対策工事費がありますけども、基本的には、全てこの工事は、地元の業者で行われるんか。

それと、もう1点は、今、いろいろ物価高騰、それなりに落ちついてはきておりますけれども、今後、この工事費プラスアルファ増加する見込みというものはあるのかどうか、この辺について、2点伺います。

○委員長（猶野智和君） 吉村施設課長。

○施設課長（吉村昌展君） 岡山委員の御質問にお答えします。

この工事については、市内業者で発注をすることとしております。

それから、材料費等の上昇が見込まれるのかということでございますけれども、今現在は、見込まれないと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） 先ほどの岡山委員の質問に関連いたしますがね、100年に一度という想定の下におやりになってるんだけど、残念ながら、13年に、過去13年の間に2回美祢線が不通になるような洪水が発生しとるんですよ。ですからね、100年に一度っていう想定は、どなたがされたのか、私は分かりませんがね、もう一度言いますよ、13年の過去13年の間2回起きとるんですよ、美祢線が不通になるほどの。そこら辺の検討といいますか、検証といいますか、これ、誰も分からないんだけど、今回の事案でどのように、さらに厳しくきっちりとおやりになったのか、100年に一度っていうのは、誰が想定したのか、そこら辺の、もっと科学的な根拠について御説明をお願いします。

○委員長（猶野智和君） 吉村施設課長。

○施設課長（吉村昌展君） 坪井副委員長の御質問にお答えします。

100年に一度のハザードマップにおきましては、これは国のほうが策定しております。それから、浸水する深さを想定しております。

それから13年に2回、豪雨災害が起きてるということでございますけれども、平成22年の7月におきましては、2日間の総雨量が269ミリでございました。このとき祖父ヶ瀬浄水場の敷地は、浸水の被害はなかったところでございます。

しかしながら、今回の6月の大雨では、3日間で386ミリ総雨量ございまして、そのときにおきましては、祖父ヶ瀬浄水場は30センチへの浸水したというところでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） よく聞こえなかったんですが、100年に一度というのは、国が定めたハザードマップに記載されているというふうに聞こえたんですが、意味がよく分かりません。

要するに100年に一度の洪水が想定される根拠について私はお伺いしたんですよ。国が定めたハザードマップっていうのは、いかなる根拠で定められたか、お尋ねをいたします。

○委員長（猶野智和君） 白井上下水道局長。

○上下水道局長（白井栄次君） ただいまの坪井副委員長の質問に対してお答えしたいと思います。

今回根拠といたしました、国土交通省が作成をいたしましたハザードマップにつきましては、これは全国規模で策定をされたものでございまして、国土交通省におかれましては、過去のデータ等を用いまして、措置系統も考慮した上で100年程度の規模の災害ということで想定をされたものが、今回、ハザードマップとして示されたものというふうにお聞きして——認識をしております、そういったデータ等を基に作成されたそのハザードマップを参考に、今回、事業規模を定めたということで御理解いただければと思います。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） 今年の6月29日から7月1日にかけての豪雨の状況というものがね、今の国のハザードマップに反映されているかどうかということなんです。

それでね、これは私、事あるごとに何度も申し上げていますが、すぐそこでね、伊佐川と厚狭川が合流するでしょう。で、それ、合流したあとはね、それほど祖父ヶ瀬まで問題が起きてないんですよ。問題は、厚狭川、伊佐川が合流した後、さらに麦川川と合流した後が、実は問題なんです。それでね、要すれば、浄水道の取水工あたりが麦川川から合流した後、パーンと水位が上がるんです。それから、美祢線が2度もダメージを受けたのをも、そのはるか下流ですよ。

ですからね、私は、もう少しおやりになる改良工事そのものはそんなに変わらんかもしれないけど、もうちょっとね、これ自然現象ですから、なかなか予測難しいんですが、もうちょっと国が定めたって言ったって、国は、そんな細かいローカルの地理的なよう分かってでしょ。

だから私はね、もっと何か美祢市が主体的に関与したそういうデータに基づいて、今回の工事を見込み——見込まれたかどうか、それを尋ねてるんです。何か他人事みたいに、国が定めたからって、そんな問題じゃ私はないと思う。もう1回きちんと根拠になるあれを示してください。今回のものが反映されてるのか、まず、具体的にそういうことをお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 白井上下水道局長。

○上下水道局長（白井栄次君） ただいま副委員長の坪井副委員長の御質問にお答えいたしたいと思います。

科学的な根拠というところでございますけれど、繰り返しになりますけれども先ほど吉村施設課長が申しましたとおり、平成22年度から13年前の豪雨災害の際には2日間の総量が169ミリでございました。その際に、祖父ヶ瀬浄水場におきましては、被害は一切出ていないという状況でございます。対岸の取水のポンプ場のほうでは被害が出ましたが、祖父ヶ瀬浄水場につきましては被害は一切出ていないという状況がまず一つございます。

それから、その13年後、すなわち今年の6月29日からの豪雨でございますけれども、この際には3日間に、送料が386ミリございました。この結果、祖父ヶ瀬浄水場につきましては、このたびも皆さん御承知のとおり、浸水被害がありまして、そ

の際に、検証の結果、30センチ程度の浸水が祖父ヶ瀬浄水場におきまして発生した、30センチの浸水があったということで、結果がまとめられた——検証結果がまとめられたところでございます。

このたびは——それと、先ほどの100年に一度の豪雨災害では50センチの浸水が見込まれておるというところでございますので、今年、本年、発生いたしました30センチよりも20センチ上回る想定がされておるところでございますけれども、今回措置いたします止水版、あるいはフェンス等につきましては——防護壁等につきましては、1メートル20センチメートルの高さを考慮しておるところでございます。

浸水する際には、仮に100年に一度の災害が発生した際に、浸水深さが50センチというところで想定はされるわけですがけれども、50センチと言いながらも、風やうねりなどにより水位上昇、さらに招くということも考慮されますけれども、1メートル20センチということでございますので、その浸水深さよりさらに70センチメートルの余裕幅といいますか、そういった考慮した70センチメートルの余裕幅を持つことによって、災害の防止を見込めるという判断でございます。それと、今後も山口県におかれましても、厚狭川の河川改修工事も予定されておられるということでございますので、そういった祖父ヶ瀬浄水場の——今、坪井副委員長が申されました位置的な状況ということも考慮いただきますように、また改めて、要望とさせていただければというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） 川からだけの増水に限らないんですね。山からドバーッと降りてくるのもあるんです。

現に、私の住んでる日永区の近くのね、相行ってところがありますかね。あれ右側に沿ってはいますけども、今回、大水が出てるんですよ。どっから出たかって、山からザーッと降りてきたんです。そういうこともあるので、上水道の取水口のところは、山の部分は多分大丈夫かなとは思いますが、そこら辺のところ、もう一遍念のためにお尋ねをいたします。

○委員長（猶野智和君） 白井上下水道局長。

○上下水道局長（白井栄次君） ただいま、坪井副委員長の御質問にお答えいたしましたと思います。

このたび、祖父ヶ瀬浄水場に浸水いたしましたのは、厚狭川からはもちろんでございますけれども、先般、9月定例会期間中の総務企業委員会の現地視察の際に現場を見ていただいたと思うんですけれども、あの一带、非常に祖父ヶ瀬浄水場の敷地が一番高くありまして、周りが皆敷地的には低い、そういう現場であったろうかと思います。実は厚狭川だけではなくて反対の侵入路、通常私どもが車等で進入する通路側のほうからも、実は水が舞い上がってきておるという状況もございます。そういったところも十分に考慮した上での今回の計画でございます。

また山のほうからの浸水と、水の侵入というお話もございましたけれども、このたび確認されました検証の結果では、山からの直接の浸水被害ということはございませんでしたけれども、隣接するところに急傾斜地もございますので、そういった懸念は、当然必要になってくるというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。村田委員。

○委員（村田弘司君） ちょっと今の坪井副委員長の質問に関連してお伺いするんですが、今、白井局長が言われたように、我々災害の後、現地を視察させてもらいました。非常に取水口の位置から考えて、あそこに浄水場を造ったってのは（聞き取り不可）なのかなという思いがしておるんですが、十二分に上下水道事業局、対応しておられると思います。ただ、今の100年に一度という言葉が今出てきましたけれども、国がいろんな災害のために、気象庁含めて、100年に一度100年に一度と、随分乱発しておられます。

しかしながら、今この世界の気候的なこの推移を見るとですね、もう100年に一度という言葉は通用しないんじゃないかというふうに思ってます。これから、今まで100年に一度と言った事象が、10年に一度になるかもしれないし、3年に一度になるかもしれないという思いがします。

今の根源的なことなんですけれども、今の祖父ヶ瀬浄水場ですよ、それ今、用水壁なんかで対応しておられると、もう今はしょうがないというふうに思ってますけれども、前も以前、前もっておかしいけど、聞いたことがあるかもしれませんが、根源的にこの位置の移転とかですね、そういうことは、中長期のビジョンだろうと思いますけれども、もうどうしようもないという時期が来る可能性が非常に高いなと私自身は思ってるんですが、その辺は、市長、市本体の考えになるかしんない

けども、上下水道事業局長として、白井局長はどういうふうに今考えております。

○委員長（猶野智和君） 白井上下水道局長。

○上下水道局長（白井栄次君） ただいまの村田委員の御質問にお答えいたしたいと思います。

祖父ヶ瀬浄水場につきましては、昭和34年5月に供用開始をされ、60年が経過をするという状況であります。耐用年数等からも考慮いたしますと、早い段階で更新という作業を進めなければという時期にきておると思います。ただその更新するに当たりまして、現在の場所で行うのか、また、新たに異なる場所に移転をしてということも想定をするわけですが、実は、さらに100年に一度というお話で進めておるわけですが、

実は、国のほうは1000年に一度という、これは今、これが今想定しうる最大規模の降雨という表現で、国土交通省の中では、ハザードマップの中でうたい込んでおるわけですが、この1000年に1回という想定しうる最大規模の降雨、これを想定した場合に3メートルを超える浸水がエリアで想定をされます。3メートルと申しますと、今の建屋、おおむね水没するという状況も想定できうるわけですので、そういった状況を鑑みますと、移転ということも視野に入れざるを得ないという状況でございます。

さらに、今、市内の上水道の根幹施設でございます祖父ヶ瀬浄水場の水源地の場所を考えますと、やはり、新たに移転できる敷地というものも限られてこようと思います。今既に、執行部の中では、おおむね考え方はまとまっておりますけれども、またこの件につきましては、議会をはじめ、市民の皆様にもいずれ近いうちに、考えを示す必要があろうかというふうに考えるところでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 村田委員。

○委員（村田弘司君） 白井局長、ありがとうございました。大変な仕事だろうというふうに思ってます。私もかつて、市の職員しとったときに、水道課長した経験ありますんでね、非常に大変な、天災っていうのは本当にいつ来るか分からんし、ましてやこの水道水っていうのはライフラインですからね、非常に命にとって大切なものですんで、これを守り抜くというのは、覚悟があって、やらなくちゃいけない仕事だというふうに思ってます。

今、執行部の中では、事業部の中での話かな、いろんなことを考えて、ある一定の方向が定まりつつあるということを今局長おっしゃいましたけどね、これからさらにそれをブラッシュアップして、早めに議会に提示していただいて、市民の方にも、それをお示しして、市民のほうに、今年度の水を供給する体制が安心できるということを示す必要があると思いますんで、その辺よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、本案に対する討論を行います。御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

これより、議案第96号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第96号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第99号美祢市職員定数条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部より説明を求めます。古屋総務企画部次長。

○総務企画部次長（古屋敦子君） それでは、議案第99号美祢市職員定数条例の一部改正について御説明いたします。

このたびの改正は、消防職員の定数を62人から66人に改正するものです。

これは、1つ目として、職員の安全な消防活動の確保及び市民サービス低下の防止、2つ目として、職員の長期派遣時の人員不足の解消、3つ目として、職員の定年年齢が引上げられる中、職務の特殊性から、新規採用の職員数の平準化など、この3つの中長期的な観点からの人員確保を行う必要があるため、改正するものです。

なお、この条例は、令和6年4月1日から施行するものであります。

引き続き、消防本部から定数を増員することについて、詳細な説明を行います。

○委員長（猶野智和君） 泉消防本部総務課長。

○消防本部総務課長（泉 雅文君） 消防本部から定数の増員について御説明いたします。

定数増員の理由につきましては、総務企画部から説明がございましたので、消防本部からは、定数増員の必要性について説明させていただきます。

現在の消防本部職員定数は62名で運用しておりますが、山口県消防学校教官、消防防災航空センター派遣の1名及び消防指令センター派遣の2名は、常時活動要員外合わせて新規採用され、約8か月間、消防学校初任教育へ入校中の職員は、活動要員外となっており、活動人員の確保が困難な状態状況となっております。

また、災害の複雑多様化とともに、出動頻度が高い救急出動は、令和4年中において、過去10年で最多の1,453件となっており、令和5年はさらに増加する見込みです。

消防職員定数を62人から66人に引き上げることで、消防体制における配備人員を増強し、職員の活動時等における安全を担保するとともに、火災、救急などの重複した発生に対し、対応できる恒常的な勤務人員の確保を図ることができます。

次に、職員定年の引上げに伴う高齢化対策として、総務省消防庁の報告でもありますように、職務の特殊性から、体力のある若手職員は不可欠であり、継続的な新規採用の平準化など、中長期的な観点から、人員確保が必要であるとされております。

以上のことから、職員定数を増員して、活動人員を確保し、継続的な新規採用を行い、消防力の維持向上を目指すことで、市民の安全・安心を確保するものであります。

以上で説明を終わります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。本案に対する質疑を行います。質疑はございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） このたびの消防職員62名から66名、4名増員であります。市民の生命、生活の安全・安心を確保する上においては、非常に大事なことと思っております。

それで、今後当然体力のある頑強な方の消防署員としての活躍は当然必要でありますけれども、この中に、今回、女性の職員、新たなこういったこれからの時代の消防というのは当然体力、そういった増強である方の採用、当然大事ですけれども、

女性の目線での災害、防災、こういった対応というものが、逆に私は新たな時代では求められていると思っております。

また、若い女性が消防職員として働くことは、美祢市の人口減少のためにとっても、若い人を美祢市に留めることであっても、非常に重要なことですよね。

それで、大事なことは、今回4名増えるけれども、今後、女性の職員をどの程度まで増やしていくか、将来方向性に対して、その辺の計画性というものがちょっとあるんかどうか。そして、当然消防職員であれば、すぐ対応できる美祢市の在住ということが条件になると思いますけれども、美祢市以外のところで在住される方は、採用されるかどうか、しないのか。これについて、まず最初に2点伺います。

○委員長（猶野智和君） 泉消防本部総務課長。

○消防本部総務課長（泉 雅文君） 岡山委員の質問にお答えします。

まず、女性の採用計画ということでございますが、現在、美祢市消防本部では、2名を想定しておりますので、現在1名採用しておりますが、将来的には、世の中の情勢等も鑑みますが、現在のところは2名ということで計画をしております。

次に、市外の採用についてでございますが、現在も市外からの採用は行っており、条件として市内に住居を構えるということを条件としております。

今後女性についても、市外からの応募がありまして——ありましたら、同じような条件で市内に住むという条件で採用はあるという計画です。

また、現在の市外採用の状況ですけれども、62人中16人を採用しておりまして、全職員の26%となっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 今後、消防職員は、4名増えて66人体制であると思っております。

それで、女性の今現在職員が1名ということであります。今後、いろいろ他市の状況等を踏まえながら、私は、女性の消防職員の人数を計画的にどこまで持っていくことが一番美祢市にとって大事なことになるのか、これを、私は市民の皆さんに示していくことが大事と思っております。まずそれについては何もないですよね。あそこを今後の消防署の使命としてしっかりと示して、さらなる美祢市の安全・安心、女性の目線での防災・減災対策を進めていっていただきたいと思っておりますので、そ

れについて、どのような方向で進めるのかをお伺いします。

○委員長（猶野智和君） 松永消防長。

○消防長（松永 潤君） 岡山委員の御質問にお答えします。

消防本部の女性の目標数としては2名というふうに総務課長説明しましたが、これは最低の人数で、採用試験の条件としては、男女平等に上限を設けてますので、採用基準に達した場合は、女性職員をどんどん採用していきたいと思っています。

ですから、2名を最低として、4名程度女性職員が採用できたならば、今岡山委員が言われるように、女性目線での消防活動も円滑に進むのではないかというふうに考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） ありがとうございます。そういった消防長のやっぱしリーダーシップの下、こういった女性職員を増やしていく、これは私は必須じゃないかと思ってますし、まだまだ4名が本当に美祢市にとって、適切な消防職員の女性の配置かどうか、しっかりとその辺については検証していただきたいなと、このように思っております。

今後、美祢市の将来を担う、こういった若手の女性職員の人数、しっかりと協議して、美祢市にとって適切な女性消防職員の配置を進めていていただきたいことをお願いしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、本案に対する討論を行います。御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

これより、議案第99号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第99号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第101号美祢市企業立地奨励条例の一部改正についてを議題といたします。執行部より説明を求めます。別府商工労働課長。

○商工労働課長（別府泰孝君） それでは、議案第101号美祢市企業立地奨励条例の一部改正について説明いたします。

本条例は、本市における企業の立地に対する奨励措置を講ずることにより、産業の振興と雇用の促進を図ることを目的に制定しており、奨励措置の内容は、本市に事業所を新設または増設等を行う企業に対し、指定要件を満たす場合に、固定資産税及び都市計画税の課税免除や、雇用奨励金の交付等を行うものでございます。

このたび、本市へのさらなる新企業の誘致や既存企業に対する設備投資を促す観点から、奨励措置に対する指定要件と雇用奨励金の見直しを行うため、本条例の一部を改正するものでございます。

資料の3ページ、4ページの新旧対照表を御覧ください。

主な改正点について説明いたします。

まずは第4条、指定の要件についてです。

第4条本文の規定として、現行では、指定事業者としての指定の要件は、事業所の設置を行おうとするものとしておりました部分を、指定事業者としての指定の要件は、事業所の設置に係る協定を締結したものに改正しております。これは、協定締結により、進出等に関して必要な事項について、共通認識を図るためのものでございます。

次に、具体的な要件の部分になります。

まず、第1号の投下固定資産総額について、5億円以上を1億円以上に緩和しております。

次に、同条第2項です。

現行では、規則で定める従業員の数、すなわち新規に雇用する従業員数について、15人以上、中小企業者にあつては5人以上、市内中小企業者にあつては、3人以上としておりますが、改正案では、新規に雇用する従業員数を5人以上、中小企業者にあつては2人以上、市内中小企業者にあつては、1人以上に緩和いたします。

次に、第7条雇用奨励金についてです。

現行では、操業開始日等から3年間で1年以上雇用した新規の従業員1人につき20万円としておりますが、改正後は、近隣自治体との比較や女性の活躍推進の観点

から、正規従業員 1 人につき男性50万円、女性60万円、非正規雇用、非正規従業員 1 人につき男性20万円、女性30万円とし、障害者はさらに10万円を加算しております。

なお、雇用奨励金の対象は、事業所設置の協定締結日から操業開始後 3 年以内の間に、1 年以上雇用した新規雇用従業員数となりますが、これについては、規則のほうで明記したいと思っております。

以上が主な改正点になります。

なお、改正後の条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する予定でございます。

説明は以上です。

○委員長（猶野智和君） 河村観光商工部長。

○観光商工部長（河村充展君） 御審議いただく前に、さきの本会議において、本議案について、何点か御質問いただいております。まだ、回答できてない部分もございますので、その点について別府課長のほうから回答させます。

○委員長（猶野智和君） 別府商工労働課長。

○商工労働課長（別府泰孝君） それでは、まず、三好議員の御質問についてお答えいたします。

御質問の内容は、雇用奨励金は、雇用期間の要件が設けてあるのかどうか、最初から要件を満たさなければならないのかといったことであつたと思います。

これにつきまして、雇用奨励金の対象となる雇用期間は 1 年以上であります。事業所設置の協定締結日から、操業開始後 3 年以内の間に、1 年以上雇用した新規の従業員が対象となります。したがって、操業当初に、人数要件を満たさなくてもよいということになります。

続いて、杉山議員の御質問にお答えいたします。

御質問の内容は、雇用奨励金の額が上がることから、雇用奨励金の一部を雇用された方へ祝金や支度金として支払うという発想があつてよいと思うが、近隣の自治体において、同様の取組がないか調べてほしいといったことであつたと思います。

これにつきまして、県内の市を調べましたところ、現時点では、該当する取組を行われているところはございませんでした。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。本案に対する質疑を行います。質疑

はございませんか。坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） 条例改正そのものは、とってもいいことだと思います。が、このように条例を改正して、具体的に、こういうことになっとなるから、美祢市にいらっしゃいってという、何か活動をしておられるのでしょうか。条例は、もうこれ何の異論も反論ありません。

だけど、このようになってると、さあ、どうぞひとつ検討してくださいといって、誰かが活動してるのでしょうか。お尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 別府商工労働課長。

○商工労働課長（別府泰孝君） 坪井副委員長の御質問にお答えいたします。

制度が改正されましたら、直ちに市内企業をはじめ、県のほうとも情報を共有して、広く周知してまいります。

市内企業については直接訪問するなりして、情報をお伝えしたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） 今の御答弁で、市内企業というのは既に美祢市に立地されてるってことでしょうか。これはそうじゃない、市外からいらっしゃってくださいという話じゃないんですか。だから今、答弁そのもの、何かちょっと違和感を感じます。外に向かって、どうしてるんですかっていう、そういう話です。質問です。以上です。

○委員長（猶野智和君） 別府商工労働課長。

○商工労働課長（別府泰孝君） 坪井副委員長の御質問にお答えいたします。

進出されようとされてる市外の企業に対しましては、しっかりと市のホームページなり、あるいは企業誘致のパンフレットなりで、制度改正について、しっかりと周知してまいります。

また、繰り返しですが、県とも情報を共有して広く周知してまいりたいと考えております。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。村田委員。

○委員（村田弘司君） これは質問というか、ちょっと確認をさせていただきたいんですが、今別府課長が、三好議員が本会議場で質問されたことに対する回答という

か——をされたわけですがけれども、ちょっと今分かりづらかったんですね、私は。皆さんお分かりだったかもしれませんが。

人数要件が、こういう締結時ですね、第4条に書いてある、事業所の設置に係る協定を締結したというときに、人数要件が第4条の2、5人以上とか中小企業2人以上とか、市内の中小企業は1人以上という要件があります。

しかしながら、3年のうちに1名ほど雇用されたら、支給金を出すということになっておるから、契約を締結時にその要件を満たしてなくても支給できるっていうふうに私は聞こえたんですけども、ちょっと確認させてください、その辺を。

○委員長（猶野智和君） 別府商工労働課長。

○商工労働課長（別府泰孝君） 村田委員の御質問にお答えいたします。

雇用奨励金の支給要件につきましては、このたび進出に係る協定締結から、実際に操業開始されて3年間、その間に、1年間以上の雇用があった方について、支給をするものでございますので、雇用奨励金につきましては、そういった要件として、奨励措置そのものを受ける指定の要件として、この人数の要件、条例で制定しておるんですけども、その人数をですね、確認においては、まずはその進出に係る企業さん、企業からの計画書に、新規に何人採用するといった計画を基に、まずは、確認の上、指定をさせていただきます。

で、その際に予定されてる人数、採用者を採用に当たって、開業当初に全て採用しておらないといけないかということにはならないと。それは操業開始から一定期間、3年間の間にですね、予定されている人数が満たされればよいという意味でございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 村田委員。

○委員（村田弘司君） 別府課長、大変丁寧な説明ありがとうございました。よく理解できました。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、本案に対する討論を行います。御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

これより、議案第101号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第101号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第103号美祢市地域交流ステーションの指定管理者の指定について及び議案第104号美祢市地域交流ステーションの指定管理者の指定については関連がありますので、会議規則第88条に基づき、一括議題といたします。執行部より説明を求めます。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） それでは、議案第130——申し訳ありません。それでは、議案第103号及び104号美祢市地域交流ステーションの指定管理者の指定について御説明いたします。

地域交流ステーションは、地域コミュニティ活動の促進や、地域とJR美祢線利用者との交流を推進することで、JR美祢線の利用拡大を図り、もって地域振興に資することを目的として設置しておるところでございます。

現在は、103号にあります於福地域交流ステーションの指定管理者として、於福地域交流ステーション推進協議会、議案104号にあります厚保地域交流ステーションの指定管理者として、厚保地域交流ステーション振興協議会をそれぞれ指定しておりますが、令和6年3月31日をもちまして指定期間が満了となります。

次期指定管理者の指定に当たりましては、当該地域における地域コミュニティの1つの拠点として、広く地域振興につながる運営維持の必要性から非公募として、指定管理者候補者選定審査会による審査を経て、地域住民で組織する現在の団体を選定したところでございます。

つきましては、令和6年4月1日から令和9年3月31日までの3年間、於福地域交流ステーション推進協議会、厚保地域交流ステーション振興協議会を、それぞれ指定管理者として指定いたしたく、地方自治法第244条の2第6項の規定により、市議会の議決を求めるものであります。

説明は以上です。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。各議案に対する質疑を行います。質疑はございませんか。坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） この地域交流ステーションの設置、誠に良いプランだと思っています。

私は、毎月1回、厚保地域の交流ステーションに、必ず出席しております。皆さん、とにかく問題意識非常に強くて、何とか早く美祢線復旧になってほしいねって、こういう活動をしていらっしゃる。そういう意味で、本案大賛成なんですけど、1つだけ質問っていうか、とてもすばらしい企画なんですけど、今、これを選定結果のところを見ても、配点800点に対して、これ厚保地域なんですけど、600点ということなんで、こんなね、何ていうか、選定の選考のプロセスで、800点満点で600点しかないということについて、執行部はどのように評価、判断しておられるか、お尋ねをいたします。

○委員長（猶野智和君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの坪井副委員長の御質問にお答えいたします。

指定管理者候補者の選定審査会につきましては、審査委員は、厚保、於福、各公民館長、そして、長門鉄道部長、そのほか商工会、地区社協、観光協会、利用団体の方々が審査員として、審査をしていただいております。厚保地域交流ステーション、於福地域交流ステーション、どちらのステーションも地域の方が熱心に活動してくださって、施設の管理も大変清掃等、あと来られた方へのおもてなし等、大変評判もよくて、しっかりやっております。

その中で、審査会で説明——審査委員の方から御質問等が出たのが、地域交流ステーションとしてすごくよくやってくださると——やってくださってるということなんですけども、ちょっと広報とか、例えば、交流ステーションでやっておられる自転車の貸し出しとか、そういったことの広報とか周知とか、そういったことも、なかなかできていないですとか、いろいろ御指摘がございました。そういうこともありまして、点数としては、割と厳しめの点数がついたとは思っておりますが、皆さんの審査員の方も、それを踏まえての、両地域とも、地域の交流の拠点として、しっかりやっておりますということで、そういった審査結果になりましたので、市としても、その広報の部分ですとか、周知の部分ですとか、交流ステーショ

ンだけで難しい部分は、市の担当課としても、地域振興課としても、協力いたしまして、やっていきたいと思っております。

○委員長（猶野智和君） 坪井副委員長。

○副委員長（坪井康男君） お話はよく分かりました。

もう1つさっき言い忘れましたけども、事業計画の概要のところですね、利用率、これ厚保地域交流ステーションの場合、令和六、七、八年度とも60%となっています。これ利用率って、何が分母で何が分子なんですか、お尋ねをいたします。

それと私、厚保地域交流ステーションには毎月必ず行ってるんですが、皆さん行かれたことがあるかどうか知りませんが、多分ないでしょうね。あの地域に神宮皇居神社の元宮司の宮崎義敬先生の講話が、今までずっと月1回ありました。本当にすばらしい講和です。私は、これもう全然欠かさずにお伺いし、聞いておるわけですが、要はね、この団体、先ほどおっしゃいましたけども、何をどうしてほしい団体なのかっていうのはね、参加してる私自身は、何かよく分かってはいるつもりですが、参加してる皆さんは、どのように思っておられるか私聞いたことないんですかね。要すれば、この団体で何をどうしてほしいというところをもう1回、はっきりとおっしゃってくださいませ。質問というか、お願いというか、はい、よろしくお願いします。

○委員長（猶野智和君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの坪井副委員長の御質問にお答えいたします。

まず、利用率のことについて御説明いたします。

利用率といいますのは、年間の分母が年間の開所日になっております。どちらの施設も、年末年始を除きまして毎日開館しておりますので、そちらの日数が分母になっております。分子は、開館日に対して利用のあった日、ステーションを利用された日ということで分子を設定しておりますので、利用率が、目標は60%ということになっております。

で、2点目の御質問に、お答えいたします。

地域交流ステーションは、美祢市の交流の拠点でありまして、美祢線の復旧に向けて、非常に重要な役割を担っている施設と思っております。美祢線が運休している今だからこそ、復旧後の利用促進につなげることができるよう活動していただき

たいと思っておりますが、また、その一方で、地域の交流の拠点の施設として、地域振興に——地域振興に活躍していただいておりますので、公民館ですとか、学校と連携して、地域振興の一助となるような活動をしていただきたいと思いますと思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、各議案に対する討論を行います。御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

それでは、最初に、議案第103号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第103号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第104号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第104号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第108号下関市・美祢市消防通信指令事務協議会を設置する普通地方公共団体の増加及び下関市・美祢市消防通信指令事務協議会規約の変更についてを議題といたします。執行部より説明を求めます。泉消防本部総務課長。

○消防本部総務課長（泉 雅文君） 議案第108号下関市・美祢市消防通信指令事務協議会を設置する普通地方公共団体の増加及び下関市・美祢市消防通信指令事務協議会規約の変更について説明させていただきます。

本議案は、地方自治法第252条の6の規定に基づき、現在下関市及び美祢市において設置している下関市・美祢市消防通信指令事務協議会に、令和8年2月1日から新たに長門市を加入させ、同協議会規約を変更することに関し、関係地方公共団

体と協議することについて、同法第252条の2の2第3項の規定により、本市議会の議決を求めようとするものでございます。

まず、変更の理由でございますが、3市による消防指令業務の共同運用につきましては、令和4年9月の議員全員協議会において説明をさせていただいておりますが、同年の12月に、下関市、美祢市、長門市における消防指令業務の共同運用に係る基本事項——すみません。基本的事項に関する確認書を3市で締結し、現在設置しております下関市・美祢市消防通信指令事務協議会に長門市が新たに加入することから、地方自治法に基づき、下関市・美祢市消防通信指令事務協議会規約を変更しようとするものでございます。

次に変更の内容でございますが、現在の2市から長門市を加えた3市による規約に変更するため所要の改正を行うもので、主な変更内容といたしましては、協議会の名称を下関市・美祢市消防通信指令事務協議会から山口西部消防通信指令事務協議会に改め、また、協議会を設ける長門市を加えようとするものでございます。

続いて、協議会規約の内容について説明させていただきます。

新旧対照表を御覧ください。

1条では、協議会の目的として、消防通信指令に関する事務を共同で行うことを明記し、現在の下関市及び美祢市に新たに長門市を加えようとするものです。

続いて、2条では、協議会の名称として、現在の下関市・美祢市消防通信指令事務協議会から山口西部消防通信指令事務協議会に改め、第3条では、協議会を設ける市に長門市を加え、以降、両市を3市に改めようとするものです。

第4条では、協議会が管理及び執行する事務として、消防通信支援に係る事務内容を記載するとともに、常駐の両市を3市に改め、第5条では、協議会の事務所として、旧規約では所在地等を記載しておりませんでしたが、このたびの規約の変更にあわせ、下関市消防局の所在地に改めております。以下、長門市が加わることによって必要となる条文を変更しております。

規約の施行期日につきましては、令和6年度から7年度にかけて整備する高機能消防指令センターシステムの整備完了及び3市による共同運用開始予定日であります令和8年2月1日としております。

最後にスケジュールでございますが、本市、下関市、長門市の3市それぞれにおいて、本議案についての議決をいただいた後に、地方自治法の規定に基づき、協議

会の設置及び告示を行うとともに、山口県知事への届出を行う予定としております。

その後、本規約の施行日に向けて、職員の身分や服務、経費支弁等、諸規定を定めるとともに、高機能消防指令センターシステムの整備を進め、3市による円滑な通信指令業務の共同運用に向けて整備を進めてまいります。

以上で説明を終わります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。本案に対する質疑を行います。質疑はございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 今説明を受けましたけれども、長門市からの3市ということで、長門市さんが加わることによる、そのメリットはどういった部分があるか。そして、統括した事務所に、今回そういったところに、美祢市の職員が、消防職員がそこに行って、統合的な管理センターのほうに行って対応するかどうか、その辺についてですね、まず、ちょっとその辺、お聞きしたいなということです。ちょっとよく分からないから。

○委員長（猶野智和君） 泉消防本部総務課長。

○消防本部総務課長（泉 雅文君） 岡山委員の質問にお答えします。

消防指令業務の共同運用の効果ということでございますが、消防本部、消防部隊が広域的に運用されることにより、柔軟で、迅速かつ効率的な消防活動が可能となると思われます。これは3市の隣接性を主に考えております。

また、大規模災害や特殊災害などに対して、3つの市の地域がですね、災害状況や消防隊の出動状況等を一元化することができますので、災害の受信と同時に迅速な応援出動が可能となると考えております。

また、これによりまして、消防指令センターのシステムの構築を3市で行うということになりますので、整備費の削減を図ることができると考えております。

また、市の――美祢市の職員が指令センターのほうに行って統括的に見るのかということですが、下関市、美祢市、消防通信指令協議会のほうへは、現在2名派遣しておりますけれども、3市になりまして、継続的に2名派遣するということで決まっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） ありがとうございます。よくその辺の背景が分かりました。

それで、この統括的なセンターということで、例えば2市でやってるより今度は3市、そうなるとですね、例えば、救急とかね、いろいろ救急車の指導とかいうのはかなり増えますし、今後、こういった統括、3市で統括することによって、救急で連絡しても、今まで以上に早く現場に行くと、そして対処する、そういったところについては、進捗があるのかどうか、従来とそんなに変わらないかどうか、それについて最後お伺いします。

○委員長（猶野智和君） 松永消防長。

○消防長（松永 潤君） 岡山委員の御質問にお答えします。

救急出動については、基本的に管内は該当の消防が対応しますので、現着の時間等については大きな変更はないものと考えておりますが、先ほど総務課長が説明をいたしましたとおり、大規模な災害、特に応援が必要な救急隊2隊、3隊必要な場合については、隣接消防が応援隊で迅速に対応しますので、適切な対応がさらに改善されるものと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、本案に対する討論を行います。御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

これより、議案第108号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第108号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本会議で本委員会に付託されました議案6件の審査を終了いたしました。

その他、委員の皆さんから所管事項について何かございましたら、御発言をお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） ないようでしたら、ここで、病院事業局から経営状況の報告を受けたいと思いますので、説明員の入替えがありますので、ここで暫時休憩いたします。

午前10時44分休憩

午前10時58分再開

○委員長（猶野智和君） 休憩前に続き、委員会を開きます。

それでは、病院事業局の経営状況について報告をお願いいたします。古川市立病院事務部事務長。

○市立病院事務部事務長（古川和則君） それでは、私どものほうから、市立2病院の経営状況について説明させていただきます。

まず、私のほうから、市立病院の4月から10月までの経営状況を報告させていただきます。

今、お送りいたします資料に基づきまして説明いたします。

まず、左側の1ページになりますが、中段から下辺りに、各指標の計画との比較という表がございます。

こちら2段目を御覧いただきまして、市立病院におきましては、今年度1日当たりの入院患者数を104人と設定いたしまして運営しております。

しかしながら、10月末までの平均患者数については87.3人となりまして、達成率については83.9%となっております。その下側が、患者数の推移のグラフでございますが、特に、春先については、この地域の特性とは思われますが、特に、5月、6月については農繁期ということもありまして、なかなか入院を延期される方もいらっしゃるしまして、ちょっとこの辺りが、患者の確保に苦慮するところでございます。

7月につきましては、豪雨災害によります市内の高齢者施設の被災者の方を市立2病院に引受けております。その関係で、入院患者が大幅に相当しております。

しかしながら、市立病院におきましては8月、9月におきまして、2階病棟でコロナのクラスターが発生しております。その関係で、入院の新規の受入れ患者の制限を行いました関係で、8月、9月については患者が減ってるところでございます。

それらを受けまして、上側の表になりますが、一番上の医業収益の欄を御覧いただきまして、入院収益につきましては、計画値に対して79.2%、外来については

83.87%となりまして、営業収益全体では、計画に対しまして81.1%の状況になっているところでございます。

それに対して、医業費用におきましては、計画時に対してほぼ計画どおりとなっておりますが、1つ経費の中で、こちらが予算に対して101%の執行率になっております。この主な原因につきましては、右側に理由を書いております。一番下になりますけど、委託料の増額ということが610万6,000円となっております。こちらについては、昨今、看護師不足、なかなか募集をかけても来られないということで、現在の派遣看護師を3名お願いしております。その関係もありまして、委託料が予算に対して大きく上回ったところでございます。

そして、その下側の医業外収益におきまして、4段目ですかね、県支出金、こちらについては390万1,000円計上しております。

こちらは、新型コロナについては5月8日以降5類に移行されておりますが、県の感染状況によりまして確保病床の要請がございまして。この関係があった時期については、金額は去年の約半分ぐらいになりますけど、確保した病床に対しては、空床補償が入っております。こちらが5月8日から6月末までになっておりますけど、市立病院におきましては2床病床を提供していただきました関係で、この金額が入ってきているところでございます。

それともう一つ、この中には市内の高齢者施設でクラスターが発生した際に、当院の感染管理の認定看護師がその施設に出向きまして感染の指導等を行っておる、そちらの補助金についてもこちらのほうに入っております。

それらによりまして、経営状況につきましては、この下側の事業収支C+Hになりますけど10月末までで2,321万円の今の黒字の状況となっておりますが、今後におきましては、また12月、3月と大きな支出がございまして。これらも踏まえまして、経営管理を行いながら、今年度についても、経営の安定化について努力してまいり所存でございます。

市立病院については以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 古屋病院管理部次長。

○病院事業局管理部次長（古屋壮之君） それでは、私のほうから美東病院の経営状況について御説明します。

資料の7ページを御覧いただければと思います。

まず、医療収益に関してですけれども、まず、入院収益、本年4月から10月末までの入院患者の実績といたしましては1万6,901人、計画値とは約90%の——となっておりますけれども、入院収益全体としましては4億4,269万8,000円、また、外来収益、こちら右枠のほうに今年度の実績1万4,650人、約900人程度前年より減っておりますけれども、コロナが5月8日以降5類に移行されましたが、それ以降も発熱外来を設置し、日々検査等に当たっております関係で、1人当たりの診療単価が大幅に増額となっております。

これを受けて、外来収益としては1億2,377万7,000円、医業収益全体としては6億1,824万7,000円、当初予算比では91%の達成率となっております。

これに対し、医業費用のほうです。

全体で7億5,358万5,000円、対予算——対予算で考えますと約98.8%の執行率となっております。

給与費、経費等、比較的当初予算の枠内に収めておりますけれども、材料費、当初予算に対し1,200万円程度大きく上回っております。

これにつきましては、薬品費、また、診療材料費の価格の高騰の問題があります。

まず、医薬品に関しましては、数年前から後発品——後発医薬品製造メーカーの不正による供給量——供給体制の減少、また、最近でも沢井製薬のほうでまた1件不正をしております、とにかく後発品の入手が困難になっております。薬がないということは、病院にはあってはならないことなので、同等の効用を要する先発医薬品への切替えが主な要因となっております。

また、診療材料費につきましても、原材料費の高騰、また、人件費の高騰等受け、じわりじわり単価が上がっております。

経費の中でも、業務委託の関係、給食、また、清掃等、食材——食材費の増加、また、同様に、人件費の高騰を受けまして、このような結果になっております。

これを受けまして、4月から10月末までの美東病院の事業収支の関係としましては6,853万3,000円の利益の状態となっております。

先ほど、古川事務長のほうも話ありましたが、この12月の人件費、また、3月の起債の償還等大きな支出を控えております。

入院収益のところで、病床稼働率が79%という——申し上げましたが、11月以降、非常に高い入院——病床稼働率を維持しております。現時点では、約81%

まで引上げができておりますので、引き続き、経営のほうを維持していきたいというふうに考えております。

説明につきましては以上です。

○委員長（猶野智和君） それでは、この件に関し、質疑はございませんか。

○委員（高木法生君） ちょっといいですか。

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） 2点ほどお伺いします。

美祢市立で看護師の確保が大変難しいということで、派遣ということで委託料が増えたとおっしゃったんですけど、派遣っていうのはどねえな——どこから派遣されるんですか。

○委員長（猶野智和君） 古川市立病院事務部事務長。

○市立病院事務部事務長（古川和則君） 高木委員の質問にお答えします。

派遣につきましては、3社ぐらい業者さんと契約しておりますけど、今来られるのが結構県外の方、それから、県内の方でも市外の方が来られております。一応、契約期間が最長でも6か月となりますので、それ切れた場合は、また必要な場合は追加でお願いすることになっております。

○委員（高木法生君） そしたら、今後も……

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） 今後も両病院につきましては、そういったことで対応すること——あるということですね、ずっと。

○委員長（猶野智和君） 安村病院管理部長。

○病院事業局管理部長（安村芳武君） 御質問にお答えします。

基本的には、それも踏まえた上で、一定の余裕のある看護師を配置——確保したいというのが基本であります。今、まだ非常に厳しい状態ですんで、もう一步、通常の状態での看護師確保に力を入れていかなくちやならないということがあります。

今、市立病院のほうで、そういった人材派遣会社等を使うっていう問題——ことについては、今、年度途中で育児休業があつたり、様々な理由で休まにやけんっていうときに、今、ぎりぎりの定員では——定数ではなかなか対応できないというために、やむを得ずやっているとということでありまして、今後、できるだけ余裕のある形で確保して、そういった場合にも対応できるようにしたいというのは基本であり

ます。

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） ありがとうございます。

それと、美東病院の場合、法定福利費が大きく減じておりますけれども、これは退職手当金か何かの関係ですか。

○委員長（猶野智和君） 古屋病院管理部次長。

○病院事業局管理部次長（古屋壮之君） 高木委員の御質問にお答えしたいと思います。

一応、予算対比の数字になってます。

基本的には、医師の確保だったり、看護師の中途退職の定数確保、そういったものを踏まえて予算を組んでおります。

先ほど、派遣を使っておるということもありますけれども、なかなか医師は当然のことながら、看護師等につきましても、いまだ定数に至ってないというところで、予算対比ではこのような数字になっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。山下委員。

○委員（山下安憲君） ジェネリック医薬品の不足というのは、これはあれですか、今やっぱりその原材料とかいう、根本原因って言ったらあれですけど、またこれもちょっと慢性的に続くものなんでしょう。

○委員長（猶野智和君） 古屋病院管理部次長。

○病院事業局管理部次長（古屋壮之君） 山下委員の御質問にお答えしたいと思います。

先ほどもちょっと触れましたけれども、2、3年前に富山のあちらのほうの日医工、ジェネリックの大手の製造元になりますけれども、そちらを含めて2、3件のメーカーが製品の管理の不正を指摘されまして、今、行政処分——製造が滞っております。

また、先ほど言いましたように、最近では沢井製薬のほうが同様の不正を行ったというところで、こちらのほうも行政処分が下されて製造ライン、かなり止まっておる状況になります。

昨年、コロナがありましたけれども、そういったところも含めて、ジェネリック

の流通というのは病院だけじゃない、院外薬局につきましても同様ですけども、その流通というのはかなり停滞しておる状況です。なかなか病院薬剤師がメーカー等との調整を行いますけれども、なかなかその復旧のめどってというのは、立っていない状況はあります。

国のほうも動こうとされておりますけども、もう数年、流通の正常化にはかかるんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） えっとですね、この令和5年度、この経営状況で事業収支、美祢市立病院と美東病院、なかなかこの計画目標に対して、なかなかそこまでに至らない——やむを得んところもあるんですけど、プラスに上がっているということは高く評価したいと思います。美祢市立病院が2,300万円、そして、美東病院が6,853万円ということで収支で上がっております。

問題は、先日の井関教授のこれからの地域医療ということでいろいろ講演されました。それで、美祢市におけるこのやっぱし病院事業を運営するにあたって、キャッシュフローがないとなかなか大変な状況になりますよ、という、そういったお話等もあったんですけど、今、美祢市において、キャッシュフロー幾らあって、今の額で一応大丈夫なのかどうか、それについてお尋ねしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 安村病院管理部長。

○病院事業局管理部長（安村芳武君） 御質問にお答えします。

現在の——正確な数字ではありませんけど、現在、現金を約8億弱です。で、これは十分な額とは言えません。我々としては、講演会のときに井関先生、両病院で15億円という話がありましたが、それを目標にするにしても、それぞれ市立にあっては、例えば10億円を目指すってということでなければ、やっていけないっていうのが本音であります。

美東においては、今、いい循環に入っておりますんで、これは、医師確保という大きな問題点があって、それを除けば経営的には、今のところ何とか職員協力してやってもらってます。市立のほうも、今、医師が美東に比較して、病床数も勘案しても一定の医師がいるわけなんですけど、病床両立が、先ほど説明ありましたように、クラスター——2か月、十月、十一月——9月、10月のクラスターで相当影響を

受けて、安定的に入る療養病床が埋まってないと、みたいなことがあって、そのところ、今後、埋めていって地域包括ケア病床をうまく運用して、挽回したいというふうに考えております。それをもって、現金を少しでも増やしていくということをやっけていかななくてはならないというふうに考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかに、岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 分かりました。

特に、美祢市立病院については、事業収益が美東から——美東病院と比べて低かったというのは、コロナが発生して療養病床が確保できなかった、こういうことで、こういう数字になったと思うんです。

そういうところにあって、コロナに病床で確保していたら、その国からの補助金というものは別途また入ってくるんじゃないんですかね。それは、ちょっとどうなのかをお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 古川市立病院事務部事務長。

○市立病院事務部事務長（古川和則君） 岡山委員の御質問にお答えします。

空床等につきましては、県のほうから要請があった場合につき入ってきますので、今現在の県内——感染状況も落ちついておりますので、現在については、県からの病床確保の要請がございませんので、7月以降ですかね、そこからは、今、補償の対象になっておりません。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） なかなか——なかなかちょっと大変な、ちゃんと後付けでも入っていただければね——入ればいいと思うんですけど。何か難しいみたいですね。

それで、美東病院の収支は回復傾向ということでありまして、非常にいいことと思っています。今後、特に、美祢市立病院は地域包括ケアせん——せん——あのお、病床、これをしっかりと確保することが、病院における単価も上がってきますので、そういったところに力を入れてはいつていただいて、美東病院と同じように、美祢市立病院もそういったところで収支を上げていくと。そして、キャッシュフロー、今、私10億円くらいあると思ったら8億円ですね。だから、それを、計画的に10億円をまず第1段階の目標として、そして、理想10億円なんでしょう——15億円なん

でしょうけれども、そういった方向性というのを、しっかりと築いていっていただきたいと思います。最後、その辺についてコメント——答弁があればお願いします。なければいいです。

○委員長（猶野智和君） 安村病院管理部長。

○病院事業局管理部長（安村芳武君） 質問にお答えします。

経営強化プランというのを今策定中でありまして、今、原案を策定して、その概要について、今議会の全員協議会で説明させていただきました。

その中にも書いておりますけど、実際に患者さんに来ていただくと。で、各診療所、施設との関連の中で地域密着型で多機能在宅と、あと療養と地域包括、そういったものをうまく循環するような形で入院患者さんを地域で受け止める形にするということで、しっかりと進めていきたいと。それによって、資金というものを蓄積されるというふうに考えております。

両病院とも、そのような形で進めてまいりますので、よろしくお願いします。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。竹岡議長。

○議長（竹岡昌治君） ちょっとお尋ねなんですけど、5月、6月、どうしても収益が低いという話の中で、農繁期だからということですが、全体的に見ると6月、9月ですか、V字型に引っ込むほうですが、そこですね、そこまで農繁期の影響だということ、ああ、そうですか、っていうわけにいかないんですが、市民全体の農業従事者の率はどれぐらいなんですか、人口は。どういうふうな分析されてるんですか。ちょっと、そこをお尋ねしたい。

○委員長（猶野智和君） 安村病院管理部長。

○病院事業局管理部長（安村芳武君） 質問にお答えします。

すみません、その分析は十分にしておりません。申し訳ありません。

○委員長（猶野智和君） 竹岡議長。

○議長（竹岡昌治君） コロナのときも一緒なんですけど、病院を収益事業に考えたらまずいんでしょうけど、ですが、単純に分析を農繁期だからというんじゃなくて、どれぐらいの従事——業者が——従事者がいらっしゃるか、その中で、どういう患者さんの動きがあるのか、やはり、分析をされて対応を考えていく必要があると思います。単純に、農繁期だからということじゃなくて、その辺をせつかく分析されるならば、また、それを私どもに報告の中で、せつかくその農繁期だからという

原因を言われたんで、やはり、分析をして対応策を考えていかれたほうがいいんじゃないかなあというふうに思います。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） ないようでしたら、これにて、本委員会を閉会いたします。

御審査、御協力、誠にありがとうございました。お疲れさまでございました。

午前11時23分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和5年12月11日

総務企業委員長